

2015年度

特別選抜Ⅲ アジア事情探究型（自己推薦入試）

適性検査

□ 次の文章を読んで、後の問い（問1〜5）に答えなさい。

思考停止に誘う魔力

領土と聞いたとたん、人は「思考停止」に陥る。地図に描かれた「領土」は、まるで自分の身体そのもののように視覚化され、「侵害された」という意識を持つと、自分の身が引き裂かれたように感じる。領土と自分を一体化させた「視覚的感覚」から引き起こされるイメージ。領土ナシヨナリズムがもつ「魔力」であろう。地理と歴史を中心とした国民教育の「成果」でもある。「こちら」が無条件に正しく、「あちら」に全く正当性はない……。

その魔力は、われわれの思考を国家主権という「絶対的価値」に囲い込んでいく。「われわれ」と「かれら」の利益は常に相反し、われわれの利益を守ることこそが「国益」であり、かれらの利益に与すれば「利敵行為」や「国賊」と非難される。単純化された「二択論」に、「第三の答え」はない。しかし、地球が狭くなり隣国との相互依存関係が深まれば、国家主権だけが百数十年前と同じ絶対性を維持することは不可能であろう。

境界を超えて文化と人がつながり、共有された意識が広がると、偏狭な国家主義は溶かされていく。あの前知事^(注)をはじめ、各国のリーダーが国家主義の旗を振る姿にドン・キホーテの滑稽さを感じるのはそのためである。多くの人はその滑稽さに気づいてはいるが、「魔力」からは自由ではない。

メディアの責任

メディアもまた「思考停止」と「絶対的価値」を側面から補強する。例えば、尖閣諸島の表記である。二〇一〇年九月、中国漁船衝突事件で日中関係が⁽¹⁾キンパクしたところから、新聞やTVは「尖閣諸島」の前にならず「沖縄県の」という形容詞

を付けるようになった。那覇発の原稿ならともかく、北京発の原稿で「中国外務省報道官は〇日、沖縄県の尖閣諸島で」と書かれると違和感を覚える。竹島（韓国名 独島）にも、「島根県の」という形容詞が付き始めた。李明博大統領が二〇一二年八月一〇日に上陸してからである。

メディア関係者によると、新聞協会などの申し合わせではない。各社の自主判断によるもので、政府当局からの「圧力」もないという。この形容詞がつくことによって、「日本領土」であるという意識が、無条件に読者と視聴者にすり込まれていく。

国民教育同様、メディアも領土の絶対化に⁽²⁾ **カタン**していく。

「同調圧力」によって生まれる、自己規制の無責任体系。領有権争いがある問題については、相手側の主張に耳を傾け、問題を相対化することこそ、かつて戦争に協力した歴史から学ばねばならないメディアの責任のはずだ。「国策」として推進した原子力政策は、政・官・財・学・報道の「鉄の五角形」が一体となって推進した責任が問われたはずである。領土問題でも大手メディアに「国策」を監視し、批判的にみつめる視点は⁽³⁾ **ケツラク**している。

棚上げ以外の出口はない

領土問題を解決するには、①譲渡、②棚上げ、③戦争——の三つの選択肢しかない。しかし、無人の孤島のために誰が戦争という高いリスクとコストを払うだろうか。ヒト、モノ、カネが自由に境界を超えて移動する時代、排他的な国家主権と領土の概念は、実態が希薄な法律論の世界に押しやられる。「国有化」が引き起こした東アジアの⁽⁴⁾ **ドウヨウ**は、排他的な主権・領土論を乗り越える新しい思考の必要性をわれわれに迫っている。尖閣も竹島も「北方四島」も、本来はそこで生活し、そこを生活圏にする人々のものであり、人工的国家のものではない。

領有権争いで強いのは「実効支配」している側であり、有利な立場を利用して支配を強化すれば紛争になる。日本の国有化

は、現状の一方的変更と映った。中国とは相互信頼関係がないだけに、丁寧な事前説明が不可欠だった。中国も台湾も、日本の実効支配に力で挑戦しているわけではない。挑発することによって、挑戦しているようにみせているだけである。本当に挑戦すれば戦争を覚悟しなければならない。あらゆる強硬姿勢で臨み、日本の反応を見つつ着地点を探っている状態は今後も続くだろう。

領土問題の出口は「棚上げ」しかない。四〇年前、国交正常化交渉で田中角栄と周恩来が実質的に棚上げして以来、一九七八年の A の際も両国リーダーは「棚上げ」した。二〇〇〇年に発効した中国との「漁業協定」も、排他的経済水域（EEZ）の「線引き」を棚上げした結果であった。この時も、尖閣の主権はEEZの中間線の陰に隠れ、「棚上げ」された。二年前の中国漁船衝突事件の後、中国との「棚上げ」を全面否定した民主党政権の責任は重い。固有領土論の幻想に基づく「領土問題は存在しない」という立場を維持し続けるのはもはや困難である。政府が国連などの場で、中国に対抗して主権を強調し始めたことも、逆説的だがそれを裏づける。

二〇〇八年の馬政権誕生以来、東アジアの国際政治は、B 兩岸関係が大幅に改善し、日中関係も「戦略的 ゴケイ 関係」で進展して、日台関係にもプラスの影響を及ぼしてきた。二〇一一年の日台投資協定や、台湾人向けビザ条件の緩和がそれにあたる。B 兩岸関係と日中関係が悪化すれば、日台関係の進展に対して北京は必ず「台湾独立傾向」を理由に横やりを入れるに違いない。尖閣紛争で日中関係は極度に悪化しているが、B 兩岸関係が良好なことはわれわれにとって救いと言えるだろう。

（岡田充『国家主権を相対化する契機に』による）

（注） 元東京都知事石原慎太郎氏を指す

問1 傍線部(1)～(5)の片仮名を漢字にしなさい。

(1)

(2)

(3)

(4)

(5)

問2 空欄Aには条約名が入る。それは何という条約か、答えなさい。

問3 傍線部B「兩岸関係」という語が三か所に見られるが、「兩岸」とは具体的に何を指すのか、答えなさい。

二 次の文章を読んで、後の問い（問1～5）に答えなさい。

近年の中国では「伝統」がブームである。経済発展で自信をつけた中国人が、自民族の伝統文化を復興させつつあるようにも見えるが、それらは過去に存在した「一次伝統」をそのまま復興したわけではなく、現代人の都合にあわせて人為的に作られた「二次伝統」なのだ。

筆者の専門は、京劇という中国の伝統演劇である。今回は京劇ではなく、孔子と「漢服」を例に、現代中国人の「伝統」意識について述べることにする。

ブランドとしての孔子

中華人民共和国の建国当初、孔子や儒教^Aは、保守反動の封建主義思想の権化^Bとして否定された。「文化大革命」中の批林批孔運動^Cのように、七〇年代末まで中国国内における孔子のイメージは最悪だったが、八〇年代以降、孔子の再評価が少しずつ進んだ。二十一世紀に入ると、中国政府は、孔子を中国文明を代表する「イメージキャラクター」として推奨するようになった。

中国政府が世界各地の大学や学校と提携して設立している中国文化センターの名称は「孔子学院」である。二〇〇四年、最初の孔子学院をソウルに設立、以後、世界各地に数百もの孔子学院が設立され、現在も続々と増えている。これらの孔子学院では、中国語教育や、中国文化の宣伝を行っている。

孔子平和賞も孔子学院も、『論語』や儒教思想とは関係ない。にもかかわらず、「孔子」という名称を冠している。その理由は、現代の中国で、世界的に敬愛の念をもって受け入れられるキャラクターが「孔子」だけだからである。中国政府は、なか

なか賢い。「毛沢東平和賞」とか「毛沢東学院」という名称は、使わないのである。

ただし、中国政府が利用したいのは孔子のネームバリューである。孔子そのものの権威の復活には、中国人自身も迷いがある。

二〇一一年一月、国家の中枢⁽³⁾である天安門前広場に、高さ十メートル近い巨大な孔子像が設置され、世界を驚かせた。この孔子像は同年四月、理由不明のまま広場から撤去され、再び話題となった。

ドラマの中の漢字共栄圏

この二月から、中国の新作のテレビドラマ「怒の人―孔子伝―」⁽⁴⁾が、日本でレンタルDVDとして公開される。中国国内でのテレビ放送に先立ち、日本でレンタル開始、という異例の方式だ。この孔子のドラマの制作や配給は民間の会社だが、事実上、中国の「国策映画」であると言ってよい。主役の孔子を演ずるのは、台湾の俳優ウインストン・チャオ。顔回を演ずるのは日本のいしだ壱成。絶世の美女、南子を演ずるのは韓国の女優イ・ジョンヒョン。中国大陸の俳優は、子路や子貢などを演ずる。

このドラマは、現代と過去の二つの世界が舞台となっている。アメリカに留学している中国人女子学生は、アメリカ人の教授から孔子の偉大さを教えられ(！)孔子についての論文を書くことを決意する。論文執筆のため中国に一時帰国した彼女は、現代中国人の道徳心の低下に驚くと同時に、中国人の根底には確かに脈々と孔子の思想が受け継がれていることを実感する—という現代の物語と、いしだ壱成らが演ずる二千五百年前の古代中国の物語が、一つのドラマとしてまとめられている。

「怒の人―孔子伝―」の隠しテーマは、いわば「漢字文化共栄圏」の復活である。

ファッションとしての漢服

いわゆる「八〇後」^(注2)世代の間では、ファッションとしての漢服復興運動が起きている。

漢服は、日本の和服にあたる伝統的な衣装である。和服も漢服も、二次伝統の服飾文化である。江戸時代までの日本に「和服」という発想はなかった。明治以降、洋服が登場したことで、初めて「和服」という概念が生まれた。また江戸時代は厳格な身分制社会だった。百姓町人が武士と同様の着物をまとうことは禁止されていた。明治になり、国民国家が成立して武士階級が消滅したあと、かつての百姓町人も安心して、昔の武士の正装である「紋付」を晴着として着ることができるようになった。なお天皇陛下がいわゆる「和服」をお召しにならない理由もここにある。天皇家や公家が昔の武家の装束⁽⁴⁾である紋付を着用するのは、日本史の歴史感覚から言って変だからだ。

和服は、近代になって生まれた二次伝統である。漢服も同様で、清朝の時代の正装は、満州系の「馬掛兎」などだった。漢民族本来の「漢服」の伝統は、清朝時代⁽⁵⁾には、京劇の舞台衣装など、特殊なものだった。

現代中国では、明王朝までの漢民族の服飾文化を復元した「漢服」が生まれた。ただし、和服と漢服では決定的な違いがある。

現代日本の和服には、紋付のような晴着と、甚平や作務衣のような褻着⁽⁶⁾の両方がある。晴着の和服は、公式の場での正装としても着用できる。武道や芸道では、和服が正装である。中国の漢服は、若い世代が「コスプレ」感覚で着る特殊な服である。正装として着用することはできない。また、そもそも漢服を知らない中国人も多い。

二〇一〇年十月十六日に起きた「成都漢服事件」は象徴的である。この日は旧暦の九月九日で、重陽節の日だった。ある若い女性が漢服を着用し、成都の町のレストランで友達と食事をしていて、そこへ反日デモの参加者である若者たちが来た。反日デモの若者は、漢服を日本の「和服」と誤解して激高した。女性は、これは漢服であり和服ではない、と説明した。しか

し反日デモの若者は承伏せず、女性の体から漢服を引きはがして逃走。彼女はこの事件の直後、一部始終を写真入りでネットに投稿。中国国内はもとより、日本でも話題となった。漢服を奪った男は、後に逮捕された。

事件としては大したことはない。が、「八〇後」「九〇後」の若い世代の民族主義意識や、漢服の認知度の低さなど、さまざまなことを考えさせられる事件であった。

(加藤徹『現代中国における「伝統」ブーム』による)

(注1) 批林批孔運動 文化大革命の後半期にあった政治運動。林彪とともに孔子とその教えである儒教が徹底的に批判

された。同時に暗に周恩来を批判する運動でもあった。

(注2) 「八〇後」 「八〇後」とは、一九八〇年代に出生した中国人を指す。同様に、「九〇後」は一九九〇年代に出

生した中国人を指す。

問1 傍線部(1)～(5)の漢字を平仮名にしなさい。

(1)

(2)

(3)

(4)

(5)

問2 傍線部A「儒教」とあるが、漢代にはじめて儒教を国教と定めた皇帝は誰か、答えなさい。

問3 傍線部D「清朝時代」とあるが、清朝は男女ともに「漢服」の着用を禁止したが、男性だけに強制された満州族のある

風習がある。それは何か、答えなさい。

